

この月刊サワネを、お知り合いの方に見せてあげてください、きっと喜んでいただけます。

## 2015年を考える

『2015年世界の真実』 長谷川慶太

郎著 WAC、972円 220頁

『2015年日本経済のシナリオ』 今井激著 フォレスト出版、1,728円 229頁

今回は、上記2冊の本から2015年について考えてみます。著者は二人とも国際エコノミストとして高名な方です。そして、お二人とも楽観的な2015年を描いていらっしゃいます。お正月ですから、明るいを選びました。

長谷川慶太郎氏は、日本経済は着実に成長すると言っています。

人手不足を見れば成長は自明だ。自動車メーカーの季節工が集まらない、大型バス・大型トラックの運転手がいらない、外食産業でも人手不足だ。これが意味しているのは、他にもっといい仕事があるということだ。つまり、他の業種でも人が余っているわけではないのだ。非正規も正規雇用者も賃金が上がっている。都心ではオフィスが足らなくなっている。これらは、アベノミクスの第一の矢である「異次元の金融緩和」による円安の効果である。企業の収益に大きく貢献し、海外からの投資を招いた。つまり、成長する方向に動き始めたのだ。人手不足、オフィス不足はそのあらわれである。ただし、東京オリンピックの特需は限定的である。1964年と違い、経済規模が大きくなっており、日本全国に影響するようなものではなくなっている。土木・建設分野では、その効果が東京とその周辺に限定される。

アメリカはいろいろな問題を抱えているが、底力が強く経済は盛り返す。中国は崩壊の可能性が高いが、アメリカも日本も準備を

進めている。アメリカは原子力空母の半数を東アジアにおいた。日本の集団的自衛権の解釈変更は在留日本人の救出に関連している。

今井激氏も楽観的です。

日本株は勃興する、すでに長期上昇期入りをしていて、本格的な景気回復につながる。日経平均38,950円が見えてきたとは、木野内栄治氏（大和証券投資戦略部長）が自社のパンフレットにつけた題名であるが、夢物語ではない。2016年には少なくとも25,000円には届いている。3万円でもおかしくない。日本株は買いだ。

アメリカでは、オバマが大きな爆弾を持っている。リビア東部ベンガジで起こった米総領事館襲撃事件と違法移民に対する恩赦問題だ。ベンガジ事件では大統領選挙を有利にするために重要な情報を隠ぺいしたという疑いがもたれており、第2のニクソンになる可能性もある。恩赦に対しても大きな反対がある。したがって、アメリカの株価は下がる。しかし、株価が下がるからといって、アメリカの景気が後退するわけではない。

中国のバブル崩壊は時間の問題。鉄道輸送のトン数減少、不動産価格も低下している。これらは中国崩壊の前兆である。EUもその中心であるフランスとドイツがよくない。

このように世界がぎしぎしときしんでいくのだが、日本は良くなっていく。

アベノミクスが失敗だという声もあるが、第二フェーズは秘策が目白押しであり、期待できる。

以上、二人の考えをごく簡単にまとめました。世界はたいへんだけど、日本は良いというものでした。そうは言ってもとおっしゃる方も多いと思います。私たちは日々できることを見つけて、それをやっていくしかありません。さて、何から始めましょうか？

この月刊サワネを、お知り合いの方に見せてあげてください、きっと喜んでいただけます。

## スノーピーク

スノーピークは、新潟県三条市のアウトドア用品メーカーです。付加価値の高いブランドを構築し、熱心なファンが多数いることで知られています。同社社長山井太氏の話が日経トップリーダー1月号に出ていました。少しご紹介します。

会社で経営者だけにできる仕事とは何だろうか？多様な考え方があるが、その一つは「未来をつくる」ことだ。経営者ならば、経営計画を策定したり、月次で経営データをチェックしたりするのは必須だ。また、大きな課題が浮上した時には、トップとして先頭に立って、迅速に対応しなければならない。そして、それ以外の仕事を社員にできるだけまかせるようにして、自由な時間を確保しなければならない。自由な時間をどう使うか。中長期的な視点から事業を考えることに充てている。

具体的には旅に出る。自分のフェイスブックに「旅に出ます。」と記し、社外に頻繁に出かけて行く。旅には2つのパターンがある。一つはビジネストリップだ。様々な人との会話を通して、事業の方向やそのための手がかりを見つける。一つは釣りやキャンプなどのアウトドアだ。自然の中で1人の時間をすごしながら、これまでの事業の歩みを踏まえ、今後どんなことができるかを考える。

会話も、1人の時間も欠かせない。「旅」の時間が増えるほど、会社の未来が広がる。

いかがでしたか？忙しくてそんな時間はなかなか作れないと思われるでしょう。私もそう思います。しかし、そこをなんとか、プチ旅みたいな時間を作りたいものです。目の前の火の粉を振り払わなくても良い時間、そんな時間を作ることを目標の一つに掲げてください。

## 景気、真実の裏表

景気はどうなっているのでしょうか？

1月6日の日本経済新聞2ページには、「倒産24年ぶり1万件割れ」とあります。借入金利の低下、中小向け融資増などにより企業の資金繰りに余裕が出てきたからだそうです。景気が良くなってきているのだという印象を受けます。情報源は東京商工リサーチ。

そこで東京商工リサーチのサイトを覗いてみました。その記事を見てびっくりしました。

「2014年円安関連倒産は278件で前年の2倍増」

なんと倒産倍増です。え、景気は、悪くなっているのか？同じ東京商工リサーチの発表ですが、受けるイメージがまったく逆です。よく見ると「円安関連倒産」に限定していません。日経の記事も、サイトの記事もどちらも真実なのでしょう。しかし、事実のとらえ方が違うと、まったく違って見えてしまいます。

さて、円安関連倒産を見ていきましょう。

「年間の産業別では、運輸業が100件で最多だった。人手不足による人件費アップや燃料価格の高止まりが影響。製造業58件、卸売業49件、サービス業他27件、小売業17件と幅広い業種に及ぶ。」

「業績回復の遅れに加え、円安によるコストアップが収益悪化を招き、一層の業績下振れが危惧される」

「円相場の推移次第では、倒産の増勢が懸念される」

ということで、かなり危険な状況を予想しています。前頁で紹介した今井さんは、円安が行きすぎることはないと言っていますが、心配ですね。環境に関係なく、利益を出せる方法を考えなければいけません。